



2011年1月号  
発行所:野々上事務所  
高槻市氷室町4-1-5  
072-695-1313  
発行人:本田昌子

# 2011年 地方から 政治が変わる年に！

2011年がスタートしました。今年4月に4年に一度の統一地方選挙が行われる年です。政権交代に湧いた昨年、一転して新政権による失政が失望と混乱につながった。昨年、いずれも国政の動きに一喜一憂させられる年が続きましました。今年、地方から政治をしっかりとしたものにして直す、そんな年としたいものです。

でも市長選挙、市議会議員選挙が行われます。また大阪府議会や大阪市議会の改選も行われる事から、大阪での大きな争点は、橋下知事が打ち上げた“大阪都構想”や維新の会の動きです。政令市がいらないのか、議会が不要なのか、マスコミで刺激的な見出しが踊る一方、その具体的な中身はというと、実はよくわからないのが実態です。人気知事の言動やマスコミの論調に踊

## ののうえ愛 キックオフ

日時:1月30日(日)13:30~15:00  
場所:高槻現代劇場  
(市民会館207号室)

ののうえ愛の学生時代からの盟友で、昨年最年少女性市長となった稲村和美尼崎市長をゲストにトークセッションを行います。辻元清美衆議院議員も応援に駆けつけてくれます。みなさんお揃いでお越し下さい。



**野々上 愛 (ののうえあい)**  
1977年高槻生れ。阿武野幼・小・中・三島高卒、関西外語短大卒、龍谷大法学部卒、同志社大院中退。高槻市議2期目。息子(1歳)の子育て奮闘中。

市民のみなさんの議会に対する不信感です。

高槻では現在34名の市議会議員がいますが、一体どういった活動をしているのか、また年4回開かれる定例議会でも何かが議論なされているのか、市民のみなさんに十分に伝わりきっていないのが大きな要因です。

しかしそれ以上に深刻なのが市長や市当局と議会との馴れ合い構造です。議会は市長の行う政策、予算執行をチェックするのが第一の仕事ですが、オール与党体制とも言われる中で、実際には議会に出される前に大方根回しが済んでいる、重要な議論は議会の公開の場ではなく密室で済まされてくる事もあります。そんな事が積み重なって議会への不信感が募る結果となったのでしよう。

元旦の日記より  
南平台 大西 靖

今年の元旦は、来訪者が夜には各自帰宅をしてくれました。記憶にもない出来事ことでした。唯、来客者による騒音、雑音からは解放されましたが昨年以來続いていたイライラの感情には依然として支配され続けています。自分の選択はどうであったのかと考える直しますが間違っていないと考える反面、こんなはずではないと思う気持ちがぶつかり合っているイライラの感情を心の奥深くから発症させているのです。コングリートから人へ、社会的に弱い人に暖かい政治とか、子供は国の宝、子供を大切にすること、子供を約束してくれたのにも思ふ。それでも一度に何もかも出来ない。心を広く、辛抱強く繰り返しつつ、新しい年を迎えましたが誰も何も言わなくなっ

ています。自分自身、なぜ、なぜ、と自問自答を繰り返しています。なんとかしなければと思いつつも状況は刻々と悪くなるばかりです。唯、ここで気を付けなければならぬことは、第一次大戦後ドイツにおいて国民の熱狂的な支持のもとヒトラーが登場してきた時代背景を教訓として再度学んでおくことが大切です。あれもダメ、これもダメと言う中で誰もが救世主を待ち望む心理が強くなってきます。即ち英雄の登場に期待する訳です。この心理について登場するものには最大限の注意を払うことを歴史が教えていると訴えたいと思います。民主主義はまわりくどくめんどうくさい制度ではありません。一人一人がより主体性を持つてかわってゆかなければ民主主義制度はその良さを発揮してくれません。皆さん！もう一歩前に出て関りを強めましょう。

そこで議会不要論を訴える首長の登場は確かに魅力的に映るかもしれませんが、しかし強大な権力が集中するのも首長。そのチェックは重要で重大な作業です。今こそ議会の本来の機能がしっかりと発揮されなくてはなりません。

ののうえ愛は議会不要論を訴えるのではなく、今だからこそ地方自治法の精神に則って、しっかりと議論が出来る首長と議会との関係を築き直していく事が重要と考えます。

高槻市議会議員 ののうえ愛